

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3949940号

(P3949940)

(45) 発行日 平成19年7月25日(2007.7.25)

(24) 登録日 平成19年4月27日(2007.4.27)

(51) Int. Cl.	F I	
B 6 5 D 33/28	(2006.01)	B 6 5 D 33/28
F 1 6 B 45/00	(2006.01)	F 1 6 B 45/00 A
B 6 5 D 63/12	(2006.01)	B 6 5 D 63/12 B

請求項の数 19 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2001-359155 (P2001-359155)	(73) 特許権者	501455459
(22) 出願日	平成13年11月26日(2001.11.26)		ジム-クリップ ゲゼルシャフト ミット
(65) 公開番号	特開2002-240836 (P2002-240836A)		ベシュレンクテル ハフツング
(43) 公開日	平成14年8月28日(2002.8.28)		スイス連邦共和国, シーエイチー 2 0 0 0
審査請求日	平成16年10月27日(2004.10.27)		ヌーアンブール, ルウ デ ラ ディー
(31) 優先権主張番号	00125865.6		ム 9 6
(32) 優先日	平成12年11月25日(2000.11.25)	(74) 代理人	100077838
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)		弁理士 池田 憲保
		(72) 発明者	アーノルド ツィーマン
			スイス連邦共和国, シーエイチー 2 0 1 3
			コロンヴィエール, ルウ オート 6
		審査官	柳田 利夫

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 袋を閉鎖するための閉じ具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

袋を圍繞することができるストラップ (s t r a p) を有し、前記ストラップを曲げてループ状となし、永久接続部によりこのループを閉鎖するようにした、袋を閉鎖するための閉じ具において、前記ストラップは、内側部および外側部を有し、前記内側部および外側部は、設計破断線によって互いに対して定められ、前記永久接続部により接続され、前記設計破断線で切り取ることににより前記ループを開放すること、および、前記外側部の外側へ前記内側部を折り返すことができ、前記内側部の長さは、前記内側部が切り取られかつ外側に折り曲げられた状態において、前記ストラップの端部を超えて突出するように選択されており、前記内側部を、前記外側部に形成された開口に挿入して前記内側部と前記外側部の間に解除可能な接続を生じさせることができるようにしたことを特徴とする閉じ具。

【請求項 2】

前記ストラップは、前記内側部を外側へ折り曲げた状態で、少なくとも部分的に前記内側部によって形成された舌状部であって、前記外側部に形成された前記開口に挿入できるようにした舌状部を有し、前記舌状部は、前記外側部の前記開口に前記舌状部を形状ロックにより係止するための凹部および突起のうちの少なくとも一方よりなる係止部を有する請求項 1 に記載の閉じ具。

【請求項 3】

前記係止部は、少なくとも部分的に前記内側部によって形成される請求項 2 に記載の閉

じ具。

【請求項 4】

前記係止部は、少なくとも部分的に前記外側部によって形成される請求項 2 又は 3 に記載の閉じ具。

【請求項 5】

前記ストラップは外面側および内面側を有し、前記内面側は 2 つの接続領域を有し、前記接続領域は互いに接続されて、前記永久接続部を形成することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 6】

前記ストラップは外面側および内面側を有し、前記内面側は接続領域を有し、前記外面側はさらなる接続領域を有し、前記接続領域は互いに接続されて前記永久接続部を形成する請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の閉じ具。 10

【請求項 7】

前記外側部は、ラベル又はラベル受容部となる突出領域を有することを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 8】

前記ストラップは、外面側と内面側を有し、前記外面側に文字を配置した請求項 1 乃至 7 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 9】

前記ストラップは、前記外側部に、長手方向に延在する少なくとも 1 つの補強リブを有する請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載の閉じ具。 20

【請求項 10】

前記ストラップは、横断方向に延在する少なくとも 1 本の設計折曲線を有し、前記設計折曲線を、前記内側部の少なくとも一部に設けた請求項 1 乃至 9 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 11】

前記設計折曲線は、スロットとして設計されるか又は前記設計破断線の一部として設計される請求項 10 に記載の閉じ具。

【請求項 12】

前記永久接続部は、前記ストラップの接続領域間の溶着による接続である請求項 1 乃至 11 のいずれかに記載の閉じ具。 30

【請求項 13】

前記永久接続部は、前記ストラップの接続領域間の接着剤接合による接続である請求項 1 乃至 12 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 14】

前記永久接続部は、前記ストラップの接続領域間の機械的接続である請求項 1 乃至 13 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 15】

前記永久接続部は、前記ストラップの一方の端部に設けられる請求項 1 乃至 14 のいずれかに記載の閉じ具。 40

【請求項 16】

前記内側部は、細長い設計であり、複数のウェブを介して前記外側部に連結される請求項 1 乃至 15 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 17】

前記ストラップの前記外側部は、前記内側部が切り取られかつ外側に折り曲げられた位置に開口を有する請求項 1 乃至 16 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 18】

前記ストラップは、その長手方向に対して横断する方向に延在する対称線に関して対称的に設計される請求項 1 乃至 17 のいずれかに記載の閉じ具。

【請求項 19】

前記永久接続部は解除不能な接続部である請求項 1 乃至 18 のいずれかに記載の閉じ具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、袋を閉鎖するための閉じ具に関し、特に、袋を圍繞することができるストラップ (strap) を有し、このストラップを折り曲げてループ状となし、永久的な接続によりこのループを閉鎖するようにした閉じ具に関する。

【0002】

【従来の技術】

このような閉じ具は、例えば、ドイツ特許公報 DE 44 188 77 C 2 に開示されている。その閉じ具は、いったん開けてしまうと、再び閉じることは簡単には出来ず、また、その最初の開け方を理解することが困難である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

それ故に本発明の課題は、最初の開け方をよりよく理解することができ、再び閉じることが容易である、特に袋を閉鎖するための閉じ具を提供することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明によれば、袋を圍繞することができるストラップを有し、前記ストラップを曲げてループ状となし、永久接続部によりこのループを閉鎖するようにした、袋を閉鎖するための閉じ具において、前記ストラップは、内側部および外側部を有し、前記内側部および前記外側部は設計破断線によって互いに対して定められ、前記永久接続部により接続され、前記設計破断線で切り取ることにより前記ループを開放すること、および、前記外側部の外側へ前記内側部を折り曲げることができ、前記内側部の長さは、前記内側部が切り取られかつ外側に折り曲げられた状態において、前記ストラップの端部を超えて突出するように選択されており、前記内側部を、前記外側部に形成された開口に挿入して前記内側部と前記外側部の間に解除可能な接続を生じさせることができるように構成された閉じ具が得られる。

【0005】

前記ストラップは、前記内側部を外側へ折り曲げた状態において、少なくとも部分的に前記内側部によって形成された舌状部であって、前記外側部に形成された開口に挿入できるようにした舌状部を有することが好ましい。好ましい態様によれば、この舌状部は、好ましくは、前記外側部の開口に形状ロック (form-locked) により係留される凹部および突起のうちの少なくとも一方よりなる係止部を有する。ここで、形状ロックとは、前記内側部および前記外側部のうちの少なくとも一方を変形させることによってのみ牽引力を加えてこの係留を解き、開放することができるという意味である。前記係止部は、好ましくは、少なくとも部分的に前記内側部および前記外側部のうちの少なくとも一方により形成される。

【0006】

前記内側部を外側へ折り曲げた状態にあるとき、前記内側部をストラップの端部よりも突出させているので、前記ストラップをこれに対応して延長させることができ、その操作が容易になる。

【0007】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態に係る幾つかの閉じ具について、図面を参照して詳細に説明する。

【0008】

図 1 は、閉じるべき袋に取り付ける前の状態における閉じ具を示す。この閉じ具は、プラスチック材料からなる可撓性の带状部材又はストラップ 1 を備えている。このストラップ

10

20

30

40

50

1の幅は、たとえば、5～10mmの範囲にあり、厚みは、たとえば1mm未満である。ストラップ1は、外側部2と内側部3とを有する。外側部2は、設計破断線4により内側部3に対して定められる。設計破断線4は、たとえば、目打ちとして実現することができる。この設計破断線4を介して、内側部3が複数のウェブ26によって外側部2に接続されている。内側部3を破断線4に沿って外側部2から切り取り、折り返すことができる。

【0009】

ストラップ1は、2本の設計折曲線5および6を有する。これらの設計折曲線5および6を設けることにより、設計折曲線のない位置で曲げるよりも、これらの折曲線5および6の位置でより容易にストラップ1を折り曲げることができる。図1に示す実施例において、第1の設計折曲線は、内側部3内に設けられた横スロットにより形成される。第2の設計折曲線は、ストラップ1に直交して延在する設計破断線4の連続部により形成される。

10

【0010】

ストラップ1を袋に取り付ける場合、ストラップを設計折曲線5と6の付近で折り曲げてU字形の状態とし、これを袋7にかぶせる。その後、ストラップ1により図2に示すようにループ8を形成する。続いて、接続領域9および10において、外側部2と内側部3を接合して永久接続部24となし、これにより、ストラップ1によって閉鎖ループ8が形成される。この永久接続部24は、永久的な接着剤接合および／または溶着による接続により、あるいは、困難を伴ってのみ開けることができる機械的な形状ロック接続により、実現することができる。各接続領域9および10は図1に破線によって示されている。接続領域9および10は、好ましくは、ストラップ1の端部15に設けられる。

20

【0011】

閉じ具を最初に開けるために、図2に示すストラップ1の一方の端部11を引張ると、内側部3が設計破断線4に沿って外側部2から切り取られる。これにより、図3に示すように、閉じ具が開いた状態となる。このとき、内側部3と外側部2は、永久接続部24によって相互接続されているだけである。ここで、内側部3は、外側部の端部15の一方とともに、ストラップ1を延長させる舌状部12を形成する。2つの突起13と2つの凹部14が舌状部12の基部に設けられ、これらの突起13と凹部14は外側部2の端部15の一方により形成される。

【0012】

開いた閉じ具を再び閉じるために、内側部3を折り返すことによって形成された外側部2の開口16に、この舌状部12を挿入することができ、これにより、突起13と凹部14が外側部2内に鉤合されて、形状ロックによる解除可能な接続に至る。

30

【0013】

図2に示す閉じ具の端部11を意図せずに誤って引張ってしまった場合、せいぜい設計破断線4の初めのいくつかのウェブ26が破れるくらいで、基本的には、閉じ具はもとのままである。したがって、細長い内側部3に沿って設けられた複数のウェブ26の存在により、意図されない内側部3の持ち上げはほとんど不可能である。

【0014】

図1および図3に示すように、袋に収めた商品の保証期限日などを表示する文字17を、内側部3の外側面、すなわち、袋に面していない側に配置する。文字17がこの位置にあれば、閉じ具が初期閉鎖状態にあるときも、また、反復閉鎖状態にあるときも、消費者が文字17を認識できる。

40

【0015】

図2に示す閉じ具の実施例においては、ストラップ1の内面側18を、永久接続部24の位置において外面側19の上に乗せている。こうすると、内側部3を持ち上げて外した後に、内側部3がその延長状態において舌状部12を形成することになる。図2の変形例を図4及び図5に示す。これらの図を参照すると、内面側18の2つの領域が、互いの上に乗っていることがわかる。この構成では、外側部2と内側部3をまったく簡単に溶着接合して永久接続部24を形成できるという利点がある。図2の例では、外側部2が折り返

50

えされると内側部 3 は伸展状態において舌状部 1 2 となるが、これに対し、図 4 及び図 5 の変形例においては、内側部 3 を切り取った後、内側部 3 は開口 1 6 の方に突出し、舌状部 1 2 を形成するためには折り曲げなければならない。

【0016】

図 3 の実施例においては、2 つの突起 1 3 と 2 つの凹部 1 4 とが舌状部 1 2 の基部に形成されている。これに加えてさらに 2 つの突起 1 3 と 2 つの凹部 1 4 とをもつ例を、図 6 に示す。図 6 は、舌状部 1 2 の基部の各側に形成された、各々 2 つの突起 1 3 と凹部 1 4 を示し、ここで、一方の側における突起 1 3 と凹部 1 4 は、鋭いコーナー領域を有している。反対側における突起 1 3 と凹部 1 4 は、丸みづけられたコーナー領域をもつ別の例として示されている。これらの 2 つの例は、様々な大きさの袋を開じることができるという利点がある。さらに、この設計の反復閉じ具は、図 3 の実施例と比較すると、より確実に閉鎖しロックすることができる。

10

【0017】

図 7 は、図 1 と同様に、外側部 2 と内側部 3 を有するストラップ 1 を示し、これら 2 つの部分 2 及び 3 は、設計破断線 4 によりそれぞれ互いに対して定められ、分割されている。図 1 または図 6 とは異なり、突起および凹部は、内側部 3 に設けられている。図 1 に示された実施例とは異なり、凹部 2 7 によって形成された設計折曲線又は部 2 0 が外側部 2 に設けられている。やはり、外側部 2 から内側部 3 を持ち上げることで図 3 の開口 1 6 と同様な開口が形成され、この開口を介して、内側部 3 を外側部 2 に挿入して、これらの 2 つの部分 2 および 3 の間に解除可能な接続部を形成することができる。

20

【0018】

図 8 に、図 1 の閉じ具の断面図を示す。この閉じ具は、その外側部 2 に長手方向に延在する突出リブ 2 1 を有する。リブを持たない閉じ具に比べ、リブ 2 1 を備えた閉じ具は、初期閉鎖状態において、あるいは、反復閉鎖状態において、袋によって変形されることが少ないという利点がある。そこで、この閉じ具は、良好に、完全に袋を閉鎖する。

【0019】

図 9 は、図 1 と同様に、閉じるべき袋 7 に取り付ける前の状態の閉じ具のさらなる実施例を示す。図 1 の実施例とは異なり、ストラップ 1 は、対称軸 2 2 に関し、長手方向に関して対称的に設計されている。図 9 に示すように、この対称横断軸 2 2 の両側に、横スロット 5 としての設計折曲線と、2 つの突起 1 3 及び 2 つの凹部 1 4 とが、同じようにしてストラップ 1 に形成されている。ストラップ 1 を袋に取り付けたとき、内側部 3 と外側部 2 は、図 1 を参照して説明した手順と同様に、互いに接続される。この接続は、接続領域 9' と 10' あるいは 9 と 10 において行なわれ、永久接続部 2 4 を形成する。対称設計の閉じ具は、閉じ具の製造や取付けが、閉じ具のいずれかの側における特別の設計に左右されないで済むという利点がある。

30

【0020】

図 10 は、図 1 と同様に、袋 7 に取り付ける前の状態の閉じ具のさらなる実施例を示す。図 1 の実施例の閉じ具と比較すると、この閉じ具では、内側部 3 と外側部 2 の間の図 4 及び図 5 における永久接続部 2 4 に相当する接続部が、機械的な形状ロック接続となっている。この接続は、内側部 3 の鉤状部 2 8 を、スロット 2 5 に挿入することで形成される。この鉤状部 2 8 は、破断線 4 のウェブ 2 6 を介して外側部 2 に接続しているものではない。閉じ具を再び開くと、内側部 3 は、設計破断線 4 に沿って、外側部 2 から切り取られて持ち上げられる。このとき、スロット 2 5 内に係留されている鉤状部 2 8 は外すのが困難であり、外れない。したがって、内側部 3 により、やはり、ストラップ 1 を延長させる舌状部 1 2 が形成される。

40

【0021】

いったん開けられた、前記の実施例による閉じ具を閉じるためには、外側部 1 2 から内側部 3 を持ち上げることで形成された、図 3 の開口 1 6 と同様な開口に舌状部 1 2 を挿入する必要がある。この設計の代わりに、その開口とは独立して、あるいは、その開口に組合せて、例えば、スロット 2 5 に対応する形状のさらなる開口を外側部 2 に設け、こ

50

の開口に舌状部 1 2 を挿入して解除可能な接続を行なうようにすることも考えられる。

【0022】

図 1 1 に示すように、閉じ具の製造は、複数の閉じ具を同時に製造することによって行なわれる。この製造は、押出し成形に続いて、打ち抜きやエンボス工程を行なうことにより、進められる。ここで、押出し動作は、閉じ具の長手方向軸に直交してあるいは平行に方向づけることができる。

【0023】

図 1 2 は、外側部 2 にさらにドーム状領域 2 3 を備えた閉じ具の例を示す。これらのドーム状領域 2 3 はラベルとして、また、ラベルすなわち各種の装飾や文字や記号の支持部として用いることができる。製造の後、ストラップ 1 の端部 1 5 は相互連結されてストリップをなしており、対向して位置するストラップ 1 のドーム状領域 2 3 が交互に配置されている。したがって、ストリップ間の空間を最大限に利用することができる。

10

【0024】

以上、好ましい実施例を用いて本発明を説明したが、本発明はこれに限定されるものではないのは言うまでもなく、本発明の範囲を逸脱することなく種々の変形が可能である。

【0025】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、最初の開け方をよりよく理解することができ、再び閉じることが容易である、特に袋を閉鎖するための閉じ具を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

20

【図 1】本発明の第 1 の実施の形態による閉じ具を、袋に取り付ける前の状態において示した図である。

【図 2】袋の周囲に取り付けて閉鎖した状態における、図 1 の閉じ具の上面図である。

【図 3】開いた状態における、図 1 の閉じ具を示す図である。

【図 4】袋の周囲に取り付けて閉鎖した状態の変形例を示す、図 1 の閉じ具の上面図である。

【図 5】袋の周囲に取り付けて閉鎖した状態の別の変形例を示す、図 1 の閉じ具の上面図である。

【図 6】本発明の第 2 の実施の形態による閉じ具を、開いた状態において示した図である。

30

【図 7】本発明の第 3 の実施の形態による閉じ具を、袋に取り付ける前の状態において示した図である。

【図 8】長手方向に延在するリブを示す、図 1 の線 VIII-VIII における閉じ具の断面図である。

【図 9】本発明の第 4 の実施の形態による閉じ具を、袋に取り付ける前の状態において示した図である。

【図 10】本発明の第 5 の実施の形態による閉じ具を、袋に取り付ける前の状態において示した図である。

【図 11】押出成形工程による製造後の閉じ具を示す図である。

【図 12】押出成形による製造後の、突出部を有する閉じ具を示す図である。

40

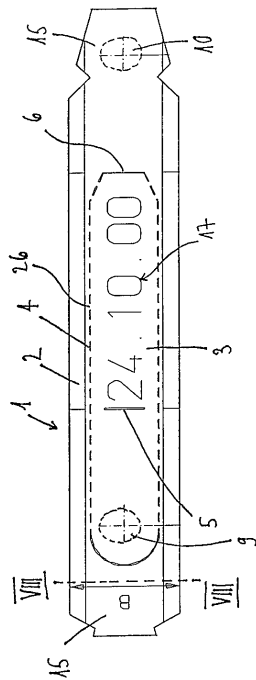
【符号の説明】

- 1 帯状部材又はストラップ
- 2 外側部
- 3 内側部
- 4 設計破断線
- 5、6、20 設計折曲線
- 7 袋
- 8 ループ
- 9、10、9'、10' 接続領域
- 11、15 端部

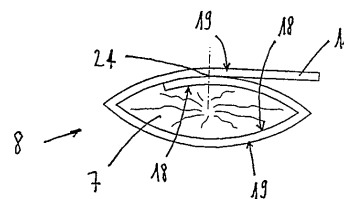
50

- 1 2 舌状部
- 1 3 突起
- 1 4、2 7 凹部
- 1 6 開口
- 1 7 文字
- 1 8 内面側
- 1 9 外面側
- 2 1 リブ
- 2 2 対称軸
- 2 3 ドーム状領域
- 2 4 永久接続部
- 2 5 スロット
- 2 6 ウェブ
- 2 8 鉤状部

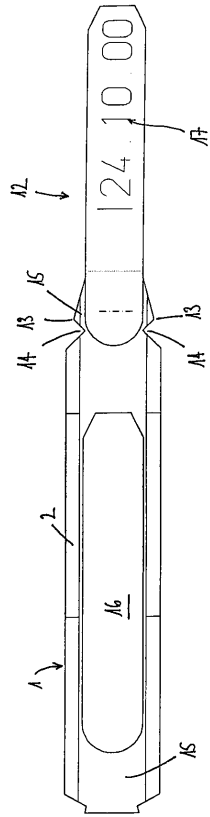
【図 1】



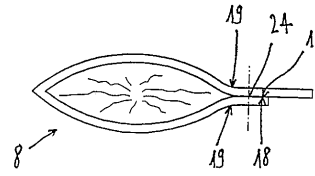
【図 2】



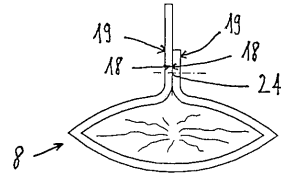
【図 3】



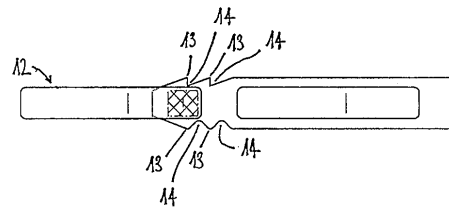
【図 4】



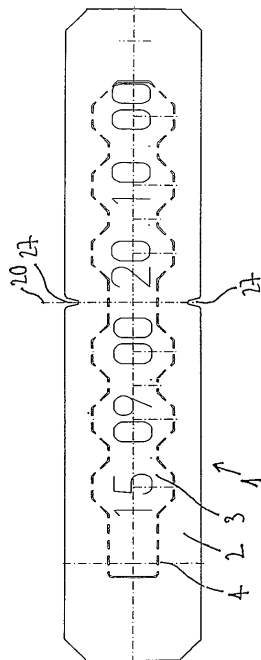
【図 5】



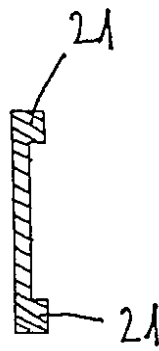
【図 6】



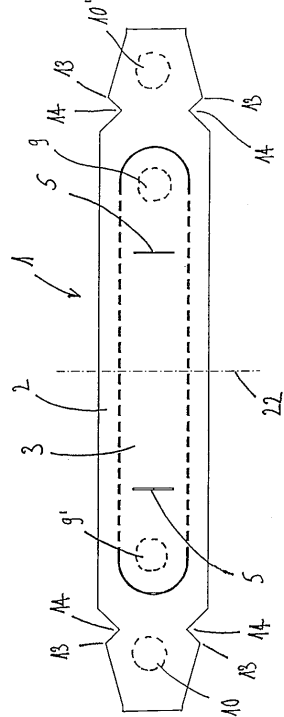
【図 7】



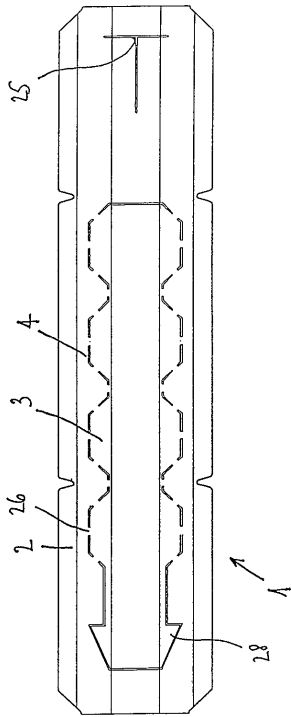
【図 8】



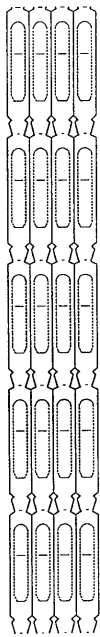
【図 9】



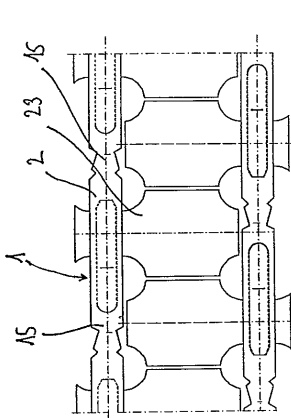
【図 10】



【図 11】



【図 12】



フロントページの続き

- (56)参考文献 国際公開第99/006298 (WO, A1)
特開昭55-020173 (JP, A)
特開平08-268446 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 33/28
B65D 63/12
F16B 45/00